

## 平成27年2月 定例委員会々議録

- 1 日 時 平成27年2月24日(火) 午後1時30分～
- 2 開催場所 会議室 301
- 3 出席委員の氏名  
委員 長 齋 藤 和 夫 委員長職務代理者 黒 川 優 子  
委 員 山 崎 克 弥 委 員 中 野 信 男  
委 員 秦 久美子 教 育 長 上 原 洋 一
- 4 説明のため出席した職員  
教育次長 金 子 彰 男 学校教育課長 山 田 公 一  
子育て支援課長 伊 藤 謙 治 社会教育課長 堀 克 彦
- 6 本委員会書記  
学校教育課 猪股 加代子
- 7 傍聴人  
3名
- 8 会議に付議した事件  
諸報告  
(1) 行事報告及び行事予定  
(2) 教育長報告  
(3) 寄付報告  
(4) 共催・後援の教育長専決報告  
  
議案  
議案第1号 燕市保育の必要性の認定に関する規則の制定について  
議案第2号 燕市立学校管理運営に関する規則の一部改正について  
  
会議録 別紙のとおり

1. 開 会 宣 言 午後1時30分～

2. 会議録署名委員の指名 中野 信男 委 員

### 3. 諸報告

#### (1) 行事報告及び行事予定について

《各課長が報告》

#### (2) 教育長報告

〈上原洋一教育長が報告〉

##### ● はじめに

- 大学入試センター試験（1/17,18）。全国平均集計が2月5日発表。新潟県は校長協会が集計した平均と比較すると、倫理、生物基礎、地学基礎、地学以外は全国より低かった。差がついたのは数学ⅡBで4.6点、化学5.8点、生物7.6点。（英語も200点満点で9点低く100点に換算すると4.5点。）算数数学、理科、英語の学習重要性痛感。

##### ● 平成27年度の組織体制と当初予算

- 組織体制 学校教育課総務係を総務企画係とし、高校生等対象の事業を所管する。
- 先週2月19日(木)、鈴木市長が平成27年度の当初予算概要を記者発表した。一般会計予算の規模は378億4,500万円、対前年度比マイナス6億9,200万円（-1.8%）に。借換債を除いた実質的な一般会計予算規模は、336億8,463万円、前年比マイナス20億7,368万円（-5.8%）に。
- 歳出における教育委員会の予算は、83億5,940万円（H26:84億3,560万円）で、全予算に占める割合は22.1%（21.9%）である。各課の主な新規・拡充事業だけ列記する。
- 【学校教育課】 羽ばたけつばくろ応援、Jack&Bettyプロジェクト拡充（英語検定受験料助成）、中学校学力向上対策プロジェクト拡充（研修会増）、燕キャプテンミーティング拡充、学校・地域連携促進、Wi-Fiステーション整備（防災課）、燕西小屋内運動場天井耐震改修、燕中剣道場天井耐震改修、小池中特別教室棟改築、吉田小改築、東部学校給食センター建設
- 【子育て支援課】 子育て総合支援センター運営、燕西こども園整備、燕西児童クラブ整備
- 【社会教育課】 中央公民館改修、JCY レディースサッカーフェスティバル、東京五輪キャンプ地誘致、子どもの体力向上サポート拡充、粟生津体育セン

ター耐震改修、分水武道館耐震改修（設計業務委託）、可搬式投光器照明整備

● **第8回良寛書道展表彰式（2月1日 産業会館）**

- レベル高い作品に感動。小学校 2,366 (2,389)、中学校 804 (759)、合計 3,170 (3,148) 点 8年間で最大。今年は全ての学校から参加。

● **社会教育委員からの提言（2月12日）**

- 燕市社会教育委員の細野委員長と高桑委員から教育長に意見書が提出された。
- 内容は中学生のスマホ、携帯、ゲーム機等のメディアツールの使用に関するもの。
- 意見書をいただいたことを教育委員会に報告する、と回答した。
- 具体的には本日の非公開部分で社会教育課長から説明する。

**(3) 寄附報告**

- 1 件の寄附報告について  
《学校教育課長が説明》

**(4) 共催・後援の教育長専決報告**

- 5 件共催・後援の教育長専決報告について  
《山田学校教育課長が説明》

**4. 議案**

**議案第1号 燕市保育の必要性の認定に関する規則の制定について**

《伊藤子育て支援課長が説明》

○委員（黒川 優子）

かなりきびしい規定と思われる。本当に困らないと保育園には入園できないことになるのか。

○子育て支援課長（伊藤 謙治）

基本的には、保育園は就労支援であり、保護者が働いていて子どもを保育することが出来ないことが基準となっており、ほとんどの方が就労されているため、子どもを保育園にあずけている状況となっている、基本的な基準は変わっていないが、新たな基準に該当する場合は保育園の入園を認めることとなる。

いままでにおいても、希望される場合は入園を認めているので、大きく変わ

ることではない。

**○委員（山崎 克弥）**

入園申し込みにも、施設型給付と地域型給付があるが、何が違うのか教えていただきたい。

**○子育て支援課長（伊藤 謙治）**

施設型給付については、現在の幼稚園、保育園、認定こども園が該当となり、地域型保育給付については、今回国が制度として認めた小規模保育、家庭的保育、居宅訪問型保育、事業所内保育となり、燕市においては待機児童の該当がないが、今後、民間が参画できるように制度の改正が行われたものであり、今後参画したい企業があれば、新たに認定することとなる。

**○委員（山崎 克弥）**

現在の無認可保育園を指定することとなるのか。

**○子育て支援課長（伊藤 謙治）**

今回の制度改正に該当する場合は、認可となる。認可については、市が認可することとなる。

審議の結果、全員一致で承認された。

**議案第2号 燕市立学校管理運営に関する規則の一部改正について**

《山田学校教育課長が説明》

**○委員（中野 信男）**

現在の規定の3月5日の根拠はあるのか。

**○学校教育課長（山田 公一）**

県の規定が3月5日となっており、近隣市町村においてもほとんど同じ規定となっている。長岡市においては、既に改正済みであるが、高校入試の日程に伴う改正になるので、他の市町村においても同様の改正がされると思われる。

審議の結果、全員一致で承認された。

**5. 閉 会** 午後2時00分

委員長 齋藤和夫

---

会議録署名委員

---

会議録調整者

---